



子供のやる気を引き出す！

一昨日、仕事帰りにコンビニに寄って買い物をしていると、小学校低学年くらいの子供と、そのお母さんが店内にいました。お母さんは、「走んな！店員さんから怒られるでしょう！静かにせんね。」と小声で我が子を怒っていました。お母さんの気持ちはわかりますが、それだと親子互いにストレスを抱えたままだなぁと思いました。そして、その子供はお母さんの静止を振り切って店内を走り出しました。たまたま私の前を通ったので「歩こうね。」と言うと、静かに歩き出し、お母さんの元へ静かに行きました。

今回紹介したお母さんは、我が子に、指示命令系の声掛けをしています。これは、学校でも反省しなければならないことです。学校の指示命令系の代表的な言葉は、「～しなさい」という言葉です。一時的には有効ですが、長続きはしません。それは、一方的な指示命令で相手を動かそうとすると、子供は自ら考えようとしなくなるからです。指示命令を続けることで、考えずに行動する習慣を身に付けているとも言えるでしょう。子供たちには、内側から湧いてくる動機によって自ら動こうとする力があります。その子供たちの力を生かす声掛けを意識することで、子供たちの行動も自ずと変わってきます。私も担任をしていた若い頃は、「静かにしなさい」「座りなさい」「仲良くしなさい」など一日中指示命令系の言葉をつかっていました。しかし、子供たち自身が生活改善に取り組む特別活動を勉強するにつれて、その言葉に違和感を覚え始めました。そこから、「時間が来たから始めよう。」「おー〇〇さんの姿勢は参考になるね。」「集中して勉強しているね。」「どうしたら◆◆さんと仲良くなれるのかな？」と声掛けをすることで、子供たち自身が考え行動する場面が増えてきました。そうやってくるとあとは、子供たちのその姿勢を認める時間が増えてきました。「今日も元気いっぱいだね。」「楽しそうでいいね。」「本当においしそうに食べているね。」「その集中力はすごいね！」など、実況中継をするように学級全体に一つの行動を担当の声によって広げて共有していきます。この実況中継は、子供の行動を単に、言葉に出して伝え、広げているだけですが、言われた子供は、「見てもらえている」と感じられる言葉なのです。自分の存在を認めてもらえていると感じると共に、自分たちの行動を客観的に見つめ直すことができる言葉でもあります。高学年にもなると、褒められることを恥ずかしくて嫌がる子供たちも出てきます。そこで、担任がさらっと見えていることをそのまま実況中継するだけで、子供は自分で考え、気付き、自発的に動くようになっていくのです。

このことを家庭に置き換えて考えてみましょう。朝の光景ですが、次のように言葉を変換してみてもいかがでしょうか？「早く起きなさい」→「さあ、起きよう（+今日の天気など）」、「朝ご飯を食べなさい」→「一緒にご飯を食べよう（+メニューなど）」、「準備をしなさい」→「準備をしよう（+今日持っていく物）」などと声をかけることでピリピリとした空気も柔らかい空気になってくるのです。これは、言葉をつかう側の意識が変わることで、日常のあらゆる場面で応用でき、子供たちが自発的に動き出す素敵な言葉なのです。

